

住宅火災に注意してください！

見附市では、昨年10件の火災が発生しましたが、そのうち5件がコンロやストーブ等の火気使用器具を原因とした火災でした。調理後のコンロの消し忘れや、コンロの周りに布巾などの可燃物を置かないように十分注意しましょう。また、ストーブの近くに衣類や布団などの燃えやすいものを置かないようにしましょう。これから暖かくなるにつれ、火気使用器具の出番は少なくなります。冬同様、取り扱いにはご注意ください。

令和5年 出動件数	
火災	10件
救急	2023件
救助	11件



住宅用火災警報器が命を守ります！

住宅用火災警報器は、火災による煙を感知し、音や音声で警報を発して火災の発生を知らせてくれる機器です。

火災による死者の多くは逃げ遅れによるものです。深夜帯での火災では逃げ遅れる危険性が非常に高くなります。住宅用火災警報器を設置して早期に火災発生に気づき、速やかな避難行動が取れるようにしましょう。また、見附市火災予防条例では、寝室や寝室がある階の階段上部と、住宅用火災警報器が必要な場所を定めています。

奏功事例(見附市内)

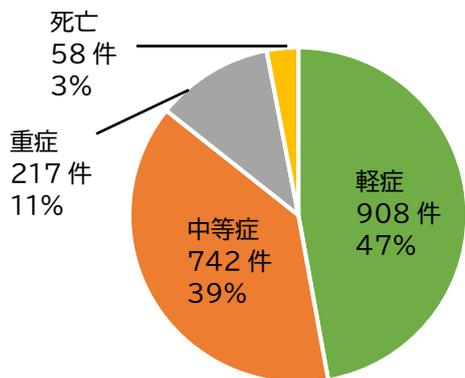
うどんを煮ていたが、飲酒したこともあり、寝てしまった。煮ていた鍋内のうどんが焦げたが、住宅用火災警報器の鳴動に気付いた隣人が通報し、出火には至らなかった。

救急出動件数が2000件を突破しました！

令和5年の救急出動件数は2023件、搬送人員は1925人と初めて年間出動件数が2000件を超え、過去最多を記録した令和4年を大きく上回りました。市民20人に1人が搬送されたこととなります。月別最多出動件数は8月の228件で、1か月間の過去最多出動件数となりました。令和5年中に救急搬送された方の47%が、搬送先の病院で入院を必要としない軽症と診察され、帰宅しています。

令和6年3月現在、消防本部に3台、今町出張所に1台の救急車を配備していますが、救急要請の増加によって、ほとんどの救急車が出勤中ということも少なくありません。

救急車には限りがあります。救急車を本当に必要とする方のために、救急車の適正利用をお願いいたします。一方で、意識がない、ろれつが回らない、呼吸困難、突然の激しい胸痛・頭痛、重大な外傷、移動する胸や背中痛みなどの症状が現れた時はためらわずに119番通報をしてください。その他症状で救急車を呼ぶか迷った場合は、かかりつけの病院や救急医療電話相談#7119(15歳未満は#8000)にお問い合わせ下さい。



- 軽 症-入院を要しない
- 中等症-3週間未満の入院を要する
- 重 症-3週間以上の入院を要する
- 死 亡-医師により死亡診断された

救急医療電話相談 相談期間 毎日(19時~翌朝8時)

☎#7119 大人(概ね15歳以上) ☎#8000 小児(15歳未満)

受診の必要性や対処法、受診可能な医療機関を看護師などがご案内します。

AI 救急相談アプリ 24時間利用可

二次元バーコードからLINEで友達追加→

医療機関受診の必要性や対処方法などをチャットで相談できます。

